



talk! talk! talk! モデル・佐々木千恵さん



モデル 佐々木千恵さん

女性に人気のビューティ雑誌「bea's up」の専属モデルとして活躍している佐々木千恵さん。彼女はモデルとしての仕事に精を出しながらも、写真に重きをおいたブログを書き、カメラ雑誌で連載を持つ。仕事を通して知った写真の魅力、その写真から紡ぎだした思想まで、時に明るく面白く、時にとても真剣に話していただいた。現在D60を操る佐々木さんは写真の腕を上げるべく、飽くなき挑戦の真っただ中です！

プロフィール

ささき・ちえ。1983年神奈川県生まれ。2005年より「bea's up」（ベルシステム24）の専属モデルを務める。そのほか、多くのカタログモデルやアーティストのプロモーションビデオに出演し、注目を集めている。

Beginning 出会い

何でも撮るぞ！ そう思わせてくれた一眼レフカメラ

写真を撮り始めたきっかけを教えてください。

デジタルカメラマガジンさんが運営しているサイトの、写真をテーマにして日常をブログに綴っていくというお仕事を3年前に始めたんです。それがきっかけで本格的に写真を撮るようになりました。それまでもレンズ付きフィルムなどで写真には親しんでいましたが、いつも写したいものが構図にうまく収まらなかったり、友だちを撮っても見切れてしまうということがしょっちゅうだったんです！ 実はそれくらい撮影が得意ではありませんでした（笑）。ただ、もともと芸術が好きだったので、写真を撮ることはとても嬉しかったです。初めて一眼レフカメラを手にしたときは、すごくワクワクしました。

一眼レフカメラの扱いには戸惑いましたか？

そうですね。でも手にしたことのないものに触れるのは面白かったですし、基本的に撮影はオートで撮っていたので操作に困ることはほとんどありませんでした。一眼レフカメラは写りもきれいで、初心者の中でも「何でも撮るぞ！」と思えるほど頼もしい存在でした。

ブログでは日常で撮られた写真をアップされているのですか？

はい。撮りたいテーマなどは決めずに、カメラを持って散歩に出たり、イベントや遠出をしたときにその様子を撮ってアップしています。初め頃は、佐々木千恵をみなさんに知ってもらうことも大切だと思っていて、できるだけ自分も写るように撮っていたんです。でも、せっかく一眼レフカメラで撮影しているのに、撮ることだけでなく写ることも考えなくてはならなくて、そういった部分でもどかしさもあって結構大変でした。写真の腕もなかなか上がらないし、行き詰まりを感じてしまったこともあったんです。

いろいろな葛藤があったのですね。その悩みは解決できましたか？

はい。最近は撮ることに専念しています。今年に入ってデジタルカメラマガジンさんで連載のお話をいただいたんです。その内容がフォトグラファーさんに学びながら写真の上達を目指すというもので、連載を始めるにあたって、私もいろいろと写真集を見たり、自分の撮りたい写真について真剣に考えるようになりました。連載が始まってからは撮影技術も教わり、さらに写真に対しての気持ちもすごく盛り上がってきたんです。その気持ちがブログにも反映されていると思います。

写真の腕前が成長し、撮影がどんどん楽しくなっているという感じなのですね。

はい！ カメラがあれば誰でも撮影はできるけど、撮りたいように撮るにはきちんと学ばないと撮れない、ということフォトグラファーさんに教えていただくことで気づきました。少し学ぶだけでも撮れる写真はだいぶ変わるということを身をもって知りました。

自分のイメージ通りの写真が撮れるようになってきましたか？

そうですね。「こんな雰囲気の写真が撮りたい」と思ったときに、ホワイトバランスやISO感度を調整して、自分が被写体を見て感じた魅力をそのまま写真に写せるようになってきたと思います。撮りたいように撮れることで、さらに写真が楽しくなっています。

Pleasure 楽しみ

自然、美しい色、小さなものに夢中！

8月の新製品D700の発表展示会「Nikon Digital Live 2008」では、トークショーにご出演していただき、デジタルカメラマガジンの企画で富士登山をした際のエピソードなどをお話いただきました。ご自身のD60を持って登山されたのですよね？

初めての富士登山でかなり辛かったんですが、D60を担いで登りきりました。登るにつれてだんだんと足がガクガクしてきましたが、ギブアップはしないぞと心に決めていたので頑張ることができました。ところどころで撮影タイムがあったので、ちょうどよい休憩にもなりましたね。荷物は重かったけれど、カメラを持って行ってよかった！ と思えました。富士山での撮影は、撮っていると手先を感じましたし、下山して自宅に戻ったらすぐプリントをしに行くくらい興奮した撮影体験でした。

今回お持ちいただいた木の写真(Photo's8)と、クモの巣の写真(Photo's9)は富士登山での写真ですか？

はい。富士登山のときにはフォトグラファーの方も一緒に登ったので、各所で撮り方のポイントを教わりながら撮影をすることができました。雄大な自然の風景のスケール感や美しさを撮るのが難しく、「これいい！撮りたい！」と思っても、撮りたいように撮れないということが多々あったんです。その度に先生に質問して教えてもらいました。すごく贅沢な学び方ですよ（笑）。

うらやましい環境です。では、普段はどういったものを撮ることが多いですか？

自然が好きなので、カメラを持って土手などに散歩に出かけて、惹かれたものを撮ることが多いです。フィギュアやオブジェも主な被写体ですね。あとはカフェでの雰囲気ある風景を撮ったりします。まだ街中を一人で撮影するのは若干恥ずかしく思うのですが、最近はカメラを持っていらっしゃる方も多いので、大丈夫かな？と感じつつあります。これからは街中でもどんどん撮っていただけたらいいですね。

幅広くいろいろなもの撮られているようですが、撮りたいと思わされる被写体に共通するものや、テーマはありますか？

撮っていて気がついた共通項は“自然、色の美しさ、小さなもの”ですね。さまざまな色が混ざり合っているような、視覚的に刺激のあるものに魅力を感じます。マイクロレンズを使うようになってからは、小さなものに寄って撮る楽しさを噛み締めていて、今は小さなフィギュアを撮るのに夢中です。

確かにマイクロレンズを使うと見え方が変わって、面白いですよね。

そうなんです！ 小さなものでも、写真に写ると彼らの世界が大きく再現されて、まるで現実のようになるのがすごく面白いんです。私は妄想癖もあるので、このメルヘンの世界の中に入りたいという気持ちもあって（笑）。多分それで小さいものを撮ることがすごく好きなんだと思います。最近ではそのつながりで虫にも惹かれつつあって、かまきりや蝶々などをかっこよく撮りたい！と思っています。でも素早く動くし、飛んでしまうので「あぁ早いよ〜」いつも撮影は失敗に終わっているんです。

佐々木さんの惹かれるものが虫とは結構意外な気がします。

いい虫の写真が撮れたらブログにも載せて、みなさんにお見せできたらと思っています。虫嫌いな方にも受け入れられるような、幻想的なカマキリなどを（笑）。なんとか素敵写真に仕上げたいですね。自分らしく、カッコよく虫を撮って、虫の魅力を少しでも感じてくれたらいいなと思うんですよ。私がこの話をするとほとんどの方に驚かされてしまうんですが、虫の中でも今は子バエ（ショウジョウバエ）が気になる存在なんです.....。

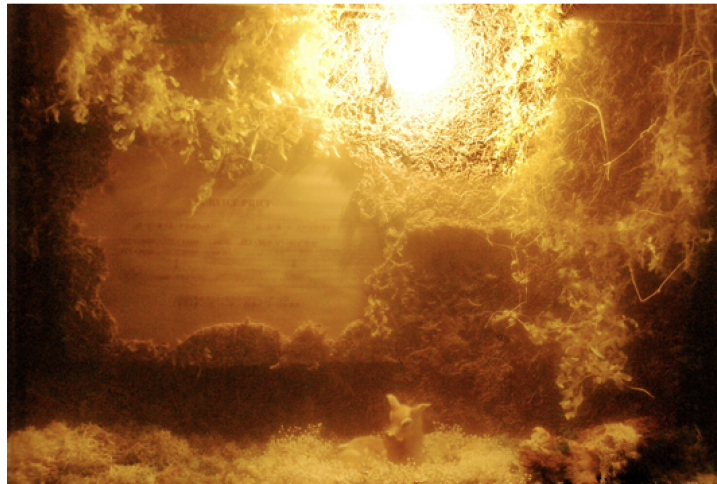
子バエですか！ それはかなり驚きです（笑）！

子バエはすごく頭がよくて、止まっているときにじっと観察すると、そのうち彼らも私に視線を送ってくるんです。私を友だちだと思って近づいてくるみたいな感じなんです。やはり子バエも写真に撮りたいと思うんですが、他の虫たちよりもかなり小さいのでより苦戦していますね。



Photo's 作品紹介

日常の風景から富士山まで 夢中で撮った写真たち



お散歩中に撮った写真。お店のディスプレイ。
小さい物が好きな私にとっては、こーゆー小さい世界がかなりツボです。



この前結婚した友達。正直人を撮るのはすごく苦手。
けどこのときは結婚式という場で友達の世界がすごくあって、
その世界のよく笑うお人形を撮ってる気分でした☆



お祭りのスーパーボール。
色がたくさんあって、くるくる回ってて、
スーパーボールと一緒にカメラを動かしてたらかなり目が回りました。。。



これもお祭りで☆
ちょいほけだけど、金魚の口がキラキラしてるのが好き。
金魚が好き。赤が好き。



お祭りの水筒。
普通に見てるだけでもキラキラしてて可愛いのに、
カメラで近づくとなんだか吸い込まれそうになりました。



ホワイトデーにいただいたアヒルさんと、成長中のバキラ☆
机の周りが動物だらけなので、たくさん写真を撮って来た一枚。



神楽坂にて。
実は風鈴の後ろの黒い柱から中学生がヒョコヒョコ覗いて邪魔されました☆



富士登山にて。
初めてのフィッシュアイ☆
広く撮れるからかなり想像以上のものが写り込んでくる感じがして感動しました☆
スケールもなんだか大きくなった感じ☆



これも富士登山。
すこく形がきれいなクモの巣を発見☆
どうしても撮りたくて、一緒に登山したカメラマンさんに撮り方を教えてもらいました☆

Future これから

自分自身も写真の腕も ステップアップを続けたい

写真の魅力はどんなところだと思われませんか？

自分の好きなものが見えてくる、わかってくるという点だと思います。私を含め今の若い年代の人達は、自分は本当は何が好きで、何を大事にしたらいのかかわらなくなってきたと感じるんです。“流行っているから”や“何となく好きだから”という理由で、もんで溢れた世界からいるいるものを手にしているように思います。私も以前は流行の服やアイテムを身につけていれば満足だったんです。それでいいと思っていました。でも、カメラを持ったことで自分の本当に好きなものがわかるようになって、自分を活かすもの、ためになるものをもっときちんと選んでいくべきなんだと気がついたんです。

確かに、ものや情報があふれていると、本当に必要なものを見つけづらくなるかもしれません。カメラは自分を見つめられるきっかけになったのですね。

そうなんです。私はモデルをやりたいという気持ちは強くあって、お仕事も精一杯取り組んでいましたが、そのほかの肉体的な内面が磨かれていないと感じていました。仕事は楽しい、友だちといることも楽しい、でもそれ以外のものは？ それだけでいいの？ という思いがあったんです。自分に対して腑に落ちない、納得のいかない気持ちを抱えていました。でも、その思いをどうしたらいいのか分かりませんでした。

そういった思いがカメラを手にし、写真を撮ることで解消されていったのですか？

はい。写真を撮ることで、撮った写真を見ることで、きちんと自分と向き合うことができました。自分を理解できれば、足りないところも見えてくる。それに自分を活かすものが何か、成長させるものは何かわかってきたんです。やりたいことにも積極的になりました。撮影するたびにたくさん気づいて、たくさん考えましたね。

写真と接することで自分自身を成長させ、また自分を好きになることもできたのですね。

そうなんです。シャッターを押していたら大きなおまけがついてきたんです（笑）。たくさんの方にもそういうふうにかメラを使ってもらえたらいいなと思います。プロが撮るような完璧な写真を目指すことはなくて、自分は何が好きか、自分のアイデンティティーに気づくためのツールになったらいんじゃないかなと感じます。

今は、“自分が何になりたい”という肝心の気持ちを見失いがちになりやすい時代なんだと思います。同年代の友だちに「今何がやりたい？ 将来はどうする？」と聞くと、女性は多くが結婚したい、男性は仕事がしたいと言います。でも、「どうしてそれがしたいの？」と聞くとその答えは不透明だったりするんです。私は漠然と将来を話すのではなく、もっと自分が本当にやりたいと思うことをクリアにして、それに対する情熱を出していけたらいいなと思っています。

佐々木さんのお話を聞いていると写真の大きな可能性を感じる事ができました。最後にこれからの目標を教えてください。

まだまだ写真は勉強中なので、これからもたくさんの被写体に挑戦したいです。フォトグラファーさんが、シャッターを押した数だけ成長するとおっしゃっていたので、どんどん撮影していきたいですね。私なりに頑張って、上達している手応えも感じているので、ステップアップを続けていきたいと思っています！ 写真は奥が深いので追求するのが少し怖くも感じますが、まずはD60で写真道を極めていきたいです。



➤ コンテンツトップへ戻る

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。